第11回日本ジオパーク委員会　議事録

日時: 2011年5月23日（月）11:50～16:15, 16:30～17:00
場所: 幕張メッセ国際会議場3階 303号室, 同2階 204号室

出席者

委員長
　尾池和夫　　財団法人 国際高等研究所 所長
委員（五十音順）
　伊藤和明　　NPO法人 防災情報機構 会長
　菊地俊夫　　日本地理学会（首都大学東京 教授）
　小泉武栄　　東京学芸大学 教授
　鹿野久男　　財団法人 国立公園協会 研究員
　高木秀雄　　日本地質学会（早稲田大学 教授）
　佃　栄吉　　産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表
　中川和之　　日本地震学会（時事通信社山形支局長）
　中田節也　　日本火山学会（東京大学地震研究所 教授）
オブザーバー
　外務省広報文化交流部国際文化協力室課長補佐　　渡邉　博
　文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官　　桂　雄三
　林野庁森林整備部研究・保全課環境保全専門官　　櫻井　知
　林野庁森林整備部計画課森林計画官　　坂口　隆
　林野庁国有林野部経営企画課森林環境保護班　　北　亮子
　経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長補佐　　高橋　潔
　気象庁地震火山部火山課　　高木康伸
　観光庁観光地域振興部観光資源課　　池田博司
　環境省自然環境局国立公園課　　丸山祐太郎
事務局
　産業技術総合研究所　　利光誠一
　産業技術総合研究所　　加藤碩一
　産業技術総合研究所　　脇田浩二
　産業技術総合研究所　　渡辺真人
　産業技術総合研究所　　濱崎聡志
　産業技術総合研究所　　吉川敏之
　産業技術総合研究所　　下川浩一
　産業技術総合研究所　　田邉　晋
　産業技術総合研究所　　兼子紗知
日本ジオパークネットワーク　　齊藤清一
日本ジオパークネットワーク　　岩崎良之

配付資料

資料 1　　公開プレゼンテーション要旨
資料 2　　日本ジオパーク委員会委員構成名簿
資料 3　　第 10 回日本ジオパーク委員会議事録（案）

【趣旨説明】

事務局の渡辺より、連合大会で日本ジオパーク委員会公開プレゼンテーションを開くことの趣旨と、GGN・JGN 等の仕組み・体制、審査・再審査の流れ、スケジュール、採点表・評価のポイントを説明した。

【隠岐地域】

大陸から島々へ／位置／古地理の変遷／Ⅰ.大陸、Ⅱ.日本海形成、Ⅲ.島の時代／独自の生態系と地史の関係／地質と植物・動物の関係／1 万年前に離島化（比較的新しく、貴重な例)／黒曜石と独自の文化／地域の取り組み（エコツーリズム、ジオパーク学習会)／独自電子マネー、EV レンタカー／GGN 立候補の理由／島の人材育成・プライドの醸成（ガイド養成講座)、などの説明

＜質疑応答＞

・ ジオとエコと人の結びつきが弱い。ジオツアーはやや「つまみ食い的」。ストーリー性の構築は？

→ 一般の人にはわかりにくいので、入りやすいところからガイドの説明を行っている。リピーターも増えている。

・ 世界に何を発信したいのか？日本の他のジオパークと比較しての独自性は？

→ 知られていないことが多数ある。隠岐だけでなく日本全体の縮図でもあり、世界に知ってほしい。

・ 世界へ売るための準備や山陰海岸との違いを考えることも必要。ストーリーには東アジア（大陸）の視点が欲しい。日本にとらわれない視点が必要。

→ 謎が多い。詳しく研究する必要がある。

・ 中国語・韓国語対応の予定は？

→ 中国語のできる職員を採用した。韓国語は今後の課題。

・ 地域振興の視点で、どのくらい活性化したか、また、将来の方向性は？

→ 隠岐の観光客は漸減傾向だったが下げ止まりつつある。リピーターや宿泊数も増えている。

・ GGN の審査員に理解させる工夫が必要。日本海の成り立ちは山陰海岸がすでに使っているが、島の独自性の説明にもう一つ工夫がほしい。

【茨城県北】

サブタイトル：東北地方太平洋沖地震被害からの復興を目指して／これまで、これから／テーマとジオサイト／新・常陸国風土記／ガイドブック（DL 可)／看板の設置（日・英)／ウェブサイト・SNS／ビジターセンター（高萩市 1、茨城大 3)／ジオツアー：2010 年に 15 回開催／3.11 地震・津波のストーリー／インタープリター育成／推進協議会の体制・予算／ジオツーリズム、ジオグッズ／ジオツアーの国際化、茨城空港との連動／誇りの持てる茨城を作る、などの説明

＜質疑応答＞

・ 広範囲であるため、ジオの意味・ストーリーが散漫。県北全体のストーリーは？全体の拠点は？

→ 全体のテーマはこれからの課題。中心拠点は五浦（茨城大）を想定している。

・ 地質の多様性はわかるが、人の歴史・生物多様性との関連は？また、長期的に見た場合、推進役が大学では継続性に心配がある。

→ 生物多様性については、茨城大学が協力してインタープリター育成を開始したところ。推進体制では、将来は自治体の首長が会長になる見込み。ただし、ジオはまだマイナーであり、根付くまではアカデミアの協力が不可欠。

・ ジオサイトは多数あるが、一つの「パーク」としてのまとまりが薄い。また、全体的に行政主導で市民活動が弱い印象を受ける。

→ インタープリターには（高萩）市民の参加もある。その活躍の場も増えているので、今後に期

待している。統一性については、東京という大都市からすぐ近くで最古の地質が見られることを売りにしたい。いわき市や日立鉱山も将来的には含めていきたい。

・ 住民の参加・関心が大切だが、「大震災からの復旧が大事で、今はジオパークをやっている場合ではない」といった市民の声は？

→ 高萩市では復興支援に入っており、こういう時期だからこそやっていきたい。

・ 津波の高さを示すモニュメントの設置は予定しているか？また、日立市の参加は？

→ 日立市には参加を呼びかけ続ける。モニュメントについては六角堂がその一つになると思うが、市街地については住民感情を見ながら慎重に進めたい。

［昼食休憩］

14:15～

【男鹿半島・大潟】

アピールポイント：１「グリーンタフの発祥地」、2「日本海側の新生界標準層序」、３「干拓による人間・生態系」／地元の理解が大切なので、小５生はジオパーク学習を必須に／見学会の開催／ジオサイト／説明板／地図・冊子／ガイド養成に注力／秋田大学との連携協定／日本列島成立の語り部・日本海の形成／火成岩から深海性堆積岩(動から静)への変化／なまはげとの結びつき／活動的大地／歴史・民俗・文化とジオの結びつき、などの説明

＜質疑応答＞

・ ジオと人との関わり合い（漁業等）が希薄。男鹿半島と八郎潟の結びつきが弱い。サポートメンバーが地質・地形に偏っている。人文系の参画を。

→ 参画しているNPOがジオ関係。これからいろいろな可能性を発掘したい。

・ 1983年日本海中部地震等の津波の災害遺構（石碑以外）や伝承は？

→ ジオパーク教室等で当時救助に活躍した地元漁師に津波の語り部として参加してもらっている。他に文化７年の地震等の文献・伝承もある。

・ なぜここに半島があるか等の、大きなジオのストーリーが欲しい。その次に各種の見所を紹介する方が良い。東日本大震災へのメッセージ発信は？

→ 男鹿半島の成り立ちは、日本海東縁変動帯の一部である男鹿島の隆起によるものと理解している。東日本大震災へのメッセージとしては、東北の復興、体力回復、よりよい地域社会づくりへ勇気を伝えたい。

・ 地元の拠点施設と予算は？

→ ジオパーク資料館（男鹿市の庁舎内）をつくる。予算は１市１村でまかなう。

・ 申請書では「なぜ」という視点と関連性の説明が不足している。男鹿の特徴を説明するのに、「なぜそこにあるのか」からつなげて欲しい。

【下仁田】

地域の概要／位置／農山村／宿場／下仁田自然学校（1999年開校)が母体／キャッチフレーズ：ネギとこんにゃく・ジオパーク／ジオサイト候補地／「多様な大地の変動から古代人の足音まで」：付加体・中央構造線・跡倉クリッペ（大地の変動)・火山活動（荒船山・妙義山)・段丘上の古代人住居・荒船風穴・中小坂鉄山／ジオパーク推進活動の体制／ガイド養成／拠点施設は下仁田町自然史館で、数年後には博物館へ発展させたい／教育活動／保全と推進（エリアごとのジオサイトの会で対応）／町づくりとジオパーク戦略／東京からのアクセス至便／登山客の取り込み／地域の誇りの再発見、などの説明

＜質疑応答＞

・ 古代人までに限らず、現代人の関係も含めて欲しい。例えばネギとこんにゃくとの関係。

→ ネギとこんにゃくは今後の課題で、農業研究者が土壌との関係を研究。
・ ネギとこんにゃくはぜひ取り入れて欲しい。農業（土壌）とジオは売りになる。
・ 地質の説明は、訪問者の出身県の何と一緒といった、日本各地との対照があると、日本列島の要素が同時に見られるということがわかりやすい。
→ 他地域（特に秩父・茨城）との交流は想定している。取り入れていきたい。
・ ガイド養成の具体的な例は？
→ 下仁田自然学校の活動の延長上にある。昨年の活動は主に座学中心だったので、今後はより実践的に行いたい。
・ 妙義山の登山ガイドやリスク対策は？
→ 妙義山には山岳会があり、中間道や石門巡りは対応可能。一番危険な縦走路は立ち入り禁止。
・ 跡倉クリッペが中心になる。その特徴を、「なぜここに」から始まって、日本列島全体のストーリーの中でうまくつなげてほしい。
・ 下仁田自然学校は理科の先生であるが、そのサポートは？
→ 下仁田自然学校の校長は野村群馬大名誉教授。他のメンバーは主に跡倉団研からのつながり。群馬県立博物館にも協議会に加わってサポートいただいている。
・ 本宿のカルデラはどのように説明しているのか？
→ 本宿については本宿陥没研究会のメンバーが中心。今後勉強したい。

【秩父】
H21 に申請したが落選／その後自治体が準備・参画／秩父は盆地であるため貴重な自然・文化が残されている／風土と地質の関係／「秩父古生層」はジュラ紀の付加体／地質学発祥から変遷を学べる／ジオバイクを企画／三波川変成岩の岩畳とポットホール／大滝の鉱山／新第三系／ようばけ化石館は再興させる／先人文化と固有の風土／協議会の活動／ジオツアー、セミナー、企画展、などの説明
＜質疑応答＞
・ 「まるごと」と謳うにはまだ足りない。なぜ盆地になっているのか等、秩父全体を大つかみに、もっとうまく、わかりやすく理解できるストーリーを組み立てる工夫が欲しい。
・ ジオと人の暮らしや文化との結びつきが分かりづらい。
→ 養蚕だけでなく、鉱山跡や江戸時代の材木搬出など、伝えたい、残したいものはたくさんある。第三系と変成岩の境界と札所との関係も。
・ 人と自然の関係で、秩父鉄道のストーリーがあってもよい。また、盆地は排水が悪いために、洪水災害史等のストーリーがあるのではないか。
→ 鉄道会社は協議会メンバー。昔の軌道跡など研究中のテーマもある。
・ 長瀞の博物館の位置づけは？
→ 埼玉県立自然の博物館は協議会メンバー。ジオサイトのストーリー等にアドバイスをしている。三波川変成岩の年代値など、最新の研究成果も随時取り入れ、提供したい。勉強会、ジオツアーの講師役として頻繁に活動している。
・「自然の博物館」であれば、ジオだけでなく、幅広く自然全体への貢献もお願いしたい。
→ 生物・考古学の学芸員もいるので、協力できる。
・ 地質学の発祥の地でもあり、地質学の変遷のストーリーを売りにしてほしい。
・ ジオパークの範囲には奥秩父の山も入るのか？
→ 奥秩父の山も入る。1 市 4 町の秩父郡と言われるエリアに相当する。

【白山手取川】

位置／平成 17 年に合併で誕生した白山市／申請の経緯／多様な自然・文化／市としての一体感・連帯感・人づくり／水をキーワードとしたジオパークの提案／地質の特徴：飛騨変成岩、濃飛流紋岩類、手取層群、白山火山／メインテーマは水（雪）の循環：「山・川・海そして雪、命をはぐくむ水の旅」／古くからの水害対策／3 つのエリアとジオサイト：山と雪・川と峡谷・海と扇状地／白山山頂の地質とお花畑／噴泉塔／V字谷渓谷／歴史文化の境界（藩界)、歴史（一向一揆）と地形との関係／活動状況／小中学校・自治会でのジオパーク体験活動と桑島化石調査隊／ガイド養成／ジオパーク学習支援員（退職教員)、などの説明

＜質疑応答＞

・ テーマはわかりやすいが、地質の説明と工夫が足りない。白山がどうしてできたのか、桑島化石壁では、なぜそこに化石があるのかという疑問に答える工夫を。

→ プレゼンでは触れなかったが、実際には大地の成り立ちから説明できる準備はしている。しっかりとガイドを養成して伝えたい。

・ 昭和 9 年の大水害の伝承や白山の土砂災害の説明も必要。白峰村の国交省の資料館はどうか？

→ 百万貫岩はジオサイトとしている。古老からの話も取り入れている。資料館は拠点の一つである。

・ 水の旅を伝える拠点は？水を活用した地域の産業は？

→ 水は地域の共通の財産と考えられ、酒造など産業は既にある。水を主題にした拠点はないが、既存の各拠点で水と関連づけた説明を心がけ、施設のネットワークを重視している。

・ （下流の川北町などへ）範囲を拡げる考えは？また桑島化石壁の保護は？

→ 手取川流域と考えると範囲は広くなるが、スピード感等を考えて、現在は白山市 1 市で進めている。今後、交流を通じて拡大の余地はある。化石産地は国立公園・天然記念物になっている。白峰化石調査センターの体験コースで化石発見・標本登録までできる。

・ 広域的なつながりは既にあるか？

→ 川北町とはジオサイト・ガイドで既に教育委員会を通じて関係がある。研究者のネットワークは使える可能性がある。

・ 白山に雪が多い（低緯度の多雪地帯）理由として、日本海に暖流があること、大陸からの季節風が渡ってくる距離が長いことなどにも触れて、山陰海岸や男鹿等、日本海側ジオパークの仲間であることを伝えるようにしてほしい。

→ 積極的に取り入れたい。

【磐梯山】

位置／磐梯山の会津側と北側の二つの顔／磐梯火山の誕生と変遷／ジオサイト（10 エリア、73 ポイント)／3 つの活動期／翁島岩なだれと猪苗代湖／1888 年噴火と岩なだれ／五色沼湖沼群／災害と恵み／歴史・文化サイト／ジオとの関係・ストーリー（弁慶の硯石等）／活動組織／ウェブページ、ガイドマップ、ガイドブック／住民への啓蒙／ガイド養成はエコツーリズム協会の協力／安全対策／各地の拠点／「宝の山」を発掘し、伝えたい、などの説明

＜質疑応答＞

・ エコツーリズム協会との関係は？

→ エコツーリズム協会のガイド養成講座は 2005 年から始まっているが、当初から火山の専門家が参加している。共存共栄を目指して活動中。

・ 具体的なエコツアーの話の内容は？

→ 裏磐梯の植生を中心に解説している。火山活動との関係では、裸地からの植生回復・植林など。

・ 植生遷移のほかに、カルデラの崩壊物質（岩屑・火山灰等）の違いによっても植生が違うし多様性がある。ぜひ取り入れてもらいたい。

・ 東日本大震災からの復興と、磐梯山の復興のストーリーとの重ね合わせがあっても良い。
→ 東日本大震災との関係では二つ。風評被害をなくすために発信することと、磐梯山の復興の記録を東北復興のヒントとして提供・発信すること。
・ 拠点を 1 箇所あげるとすればどこになるか。
→ ビジターセンターが中心だが、動植物中心なので、ジオを噴火記念館で補完。どの拠点でも最低限の情報は得られるように整備中。
・1954 年のような一回り小さな崩壊も取り上げてほしい。
→ 既に銅沼の看板で取り入れ始めている。

15:55～16:15
【全体討論】
・ 看板に専門用語が多い。一看板一専門用語ということを心がけてほしい。
・ 世の中に植物のファンは多いが、植物のツアーにはジオの要素がない。ジオツアーでは植物の説明にジオの説明も入れ、植物のファンの取り込みを工夫してもらいたい。
・ 「ジオによる付加価値」のアピールとして、水や食べ物が「おいしい」ことも言及していただきたい。

16:30～
日本ジオパーク委員会 委員と事務局による審査日程等打ち合わせ
場所: 幕張メッセ国際会議場 2 階 204 号室

・次回の委員会の日程をどうするか。
→ 洞爺湖有珠山の大会が 9/29 から。その前が望ましい。
・ 各地のスケジュールを確認。隠岐：尾池・菊地 8/22-24、茨城県北：小泉・高木 8/23-24（後日、8/22-23 に変更)、男鹿半島：伊藤・中田 8/11-12、下仁田：小泉・中川 7/27-28、秩父：尾池・菊地 8/2-3、白山手取川：鹿野・佃 7/29-30、磐梯山：町田・成田 8/20-21。次回委員会は、9 月 5 日(月)13 時～17 時を予定したい。
→ 現地審査に同行する事務局のメンバーは事務局で決めたい。
・ 現地審査に委員以外の方に参加してもらうことや再審査の件は、次回委員会で話をしたい。
・ 現地審査のスケジュールは事務局と現地で調整する。
→ 委員の交代があった。
→ 申請書の採点結果については、コメント集の最後に各地域毎の全員の合計点を示した。
・ 点数は現地審査報告後に訂正していただきたい。
・ 「委員のコメントが厳しい」との感想があった。後押しするのも必要かと思う。
・ 基本は日本のジオパークを健全に育てること。世界については、JGC が認めたものは必ず通るようなレベルを保ちたい。しかし、委員会の基本は盛り立てることで、アドバイスもする。
・ 土壌関係の話が多く出てきている。農学系の委員がいても良い。
・ 今年の GGN の総会は?
→ ノルウェーで 9/16 の予定。室戸の現地審査スケジュールは未定。申請書への修正要求はなかった。
・ 前回議事録は既に確認ということで了解。

17:00　　終了。